

第5号様式（第7条関係）

会議録

会議の名称	第1回清須市緑の基本計画策定委員会	
開催日時	令和7年8月6日（水） 午後2時00分から午後4時00分	
開催場所	清須市役所 北館3階 研修室	
議題	(1) 緑の基本計画とは (2) 清須市の緑の現況と課題 (3) 緑のまちづくりに向けて	
会議資料	資料-1 委員会設置要綱／委員名簿 資料-2 策定委員会スケジュール 資料-3 第1回 策定委員会資料 資料-4 清須市緑の基本計画〔資料編〕 (参考資料) 現行) 清須市緑の基本計画_概要版 都市計画図	
公開・非公開の別 (非公開の場合はその理由)	公開	
傍聴人の数	2人	
出席者 及び 欠席者	出席委員	千頭委員（委員長）、伊藤委員（副委員長）、山田委員、中西委員、後藤委員、松岡委員、小出委員、本間委員、湯浅委員（代理：森井委員）、水谷委員
	欠席委員	0人
		永田市長
	事務局	[建設部] 長谷川建設部長、片野参事 [建設部 都市計画課] 鈴木課長、鈴木課長補佐兼係長、村上主査、不破主事

会議の経過
<b>1 開会（午後2時00分）</b>
<b>2 市長あいさつ</b>
<b>3 委員紹介</b>
<b>4 委員長及び副委員長の選出</b> 委員長は千頭委員、副委員長は伊藤委員を選出。
<b>5 議題</b> ○委員長 議題（1）（2）について、事務局から説明をお願いします。  ●事務局 資料－3に基づき説明。  ○委員長 ありがとうございました。ただいまの資料説明についてご意見、ご質問がございましたらお願いします。  ○委員 緑の基本計画は、前計画を策定してから13年が経過しています。基本的に5年もしくは10年で見直すものかと思いますが、できなかった事情などあれば教えてください。  ●事務局 平成23年に策定後、平成28年に一部改定をしています。平成31年に都市計画マスタープランを全面改定しているため、それと合わせて改定すべきでしたが、緑の基本計画の方向性が固まらず実施できませんでした。昨年度に都市計画マスタープランを一部改定し、緑の基本計画と整合性を図る必要が生じたため、全面改定する運びとなりました。 計画を改定しなかった明確な理由はありませんが、都市計画マスタープランとの整合・足並みがそろわなかつたことが理由の1つであります。  ○委員長 本日の委員会は第1回目なので、清須市にとっての緑はどんなものか、どんな風に緑を育てていくのが良いか、など自由な発言をお願いします。

○委員

38年間子どもたちと関わってきて、はるひ夢の森公園にある芝生を子どもが植える作業をしました。また、美術館の北側に道路までスペースがあるため、そこへヒイラギナンテンを植えました。子どもたち自身が登下校の時に「自分が植えた」という気持ちが大事だと思います。ずいぶん昔になりますが、五条川に鯉を放流しました。汚水を流すのではなく、透き通った水が流れる川の方が良いと思います。環境や緑に関する取組をずっと続けており、現在も継続中です。

○委員長

子ども達はどのような反応でしたか。

○委員

生き物だと子どもは喜びます。芝生の時はきちんと植えないといけないという気持ちで、真っすぐ植えていました。ただ、ボール遊びをする子どもが多く、芝生が剥げてしまったり、地面がへこんで水が溜まったりする場所も出てきました。そうした部分を補修するのも大事だと思います。

○委員

広い道ができると、緑地帯として中央分離帯に木を植えることがあります。木が大きく育つと、その下に生える雑草が増えてきます。年1～2回は除草していると思いますが、管理されていない状況もあります。今回の緑の基本計画には維持管理の内容を入れてほしいです。落ち着いた街並みを形成するために木を植えていると思いますが、その下の管理が十分ではありません。駅前ロータリーを掃除して、できる範囲で管理していますが、夏場は暑くて草の管理までは難しいです。花より大きな草も生えてくるため、雑草などの管理を向上してほしいです。

○委員長

アダプトプログラムに参加される方は、何歳くらいの方が多いですか。

○委員

80代が多いです。公共空間だと草取りは市任せになるので、自宅の周りなどは自分で草取りを行うなど、市民に意識付けられると良いと思います。

○委員長

若い人は声をかけても参加していただけないのですか。

○委員

忙しいのだと思います。

## ○委員

清須市は合併から20年が経ち、特定市になりました。市街化区域内の農地は宅地並に課税され、市民の負担が大きくなります。そういう背景や後継者不足、市街化区域内の農地が転用しやすいこともあります。かなり減少が進んでいます。市街化調整区域は、清須市の地域の特色でもありますが、国道22号や国道302号、インターチェンジがあるため、農地転用が可能なエリアが多いです。これらは流通企業の団地に転用しているケースが多いです。これも農振農用地の減少につながっています。近年では都市計画マスタープランの見直しがされました。市街化調整区域の一部に大規模開発による企業進出の意向があるということで、将来的に農地から宅地へ転用されていく動きがあるため、緑地率、緑被率の大きな割合を占める緑が今後も減少していくと思います。また、清須市は都市防災に力を入れていますが、農地は一時的な貯留機能などがあるため、防災上の機能を持つ農地の緑の確保は、減少傾向ではあっても維持していく取組をしてほしいです。

その中で一点感じているのが、生産緑地法の面積要件の緩和です。500m<sup>2</sup>以上の農地が生産緑地として指定され、課税なども優遇されますが、法改正により、条例で300m<sup>2</sup>以上に引き下げることが可能になりました。清須市は導入できていない部分もあるため、緑の基本計画の見直しと合わせて再検討してほしいです。

## ○委員長

農業サイドから見ると、農業を守っていこう、後継者も含めて育てていこう、という意向は強いですか。

## ○委員

JA（農業協働組合）は市民一体となり、農業振興を進めていこうという取組をしています。市の産業課が中心となり産業まつりでPRしたり、農業体験を企画したりして、市民の皆様に子どもも含めて参加してもらうという、両面で展開しています。そうした動きを継続してほしいです。

## ○委員

CoCo壱番屋の会長の講演会を聞いた際に、店周りの草は全て抜いており、それが毎日の仕事だという話を聞きました。現在、自分も朝起きて一番にするのは、店周りの草抜きです。最近、メイン道路でも民家が増えて商店街がなくなってくると、草抜きをする人が減っています。青年部のボランティアで草抜きをしていましたが、どこまで刈っていいか分からぬことがあります。勝手に刈ると叱られたり、草かと思っていたものが誰かが植えていたものだったりと、どこまでが公共地なのか線引きが難しいです。立派な街路樹があっても草が繁茂していたら良くないですが、刈っていいかの許可を得るのが必要な場合もあります。方針としてどこまでの草を取っていいのか分かると良いと思います。

市として人口を増やそうとしていますが、それだと緑の割合を増やすのは難しいため、どこを目標にするかを実現可能な範囲で設定した方が良いと思います。人口密度が高くなるにつ

れ、市街地のどこを緑化するかを決めていくことが大切だと思います。

○委員長

名古屋駅周辺で地元住民が歩道部分の植え込みに家庭菜園的にナスを栽培しており、それが勝手に植えていると問題になりました。最終的に名古屋市は、一定の基準を満たせば管理しても良いという方針を決めたようです。

○委員

近年、台風の被害が大きくなり、倒木対策として木を切ることがあります、そうすると市民から「木を切ったのですか」という声をよく聞きます。逆に植えても話題になるため、緑に対しての関心は高いと思います。共通の課題として、公共でも企業でも緑の管理をする部署が維持管理するべきという意識が強いため、「自分事化」することが大切だと思います。

子どもが自分の植えたものを見て喜ぶという話がありましたが、きっかけ作りが大切だと感じました。事業者からも何か役に立ちたいという気持ちはありますが、どうすればよいか分からず、躊躇しているところがあるため、行政側から声をかけてもらえると協力しやすいです。きっかけづくりをしていただき、みんなでやるという雰囲気を作っていくことが大切だと思います。

○委員長

頑張ってくれている事業者などは、表彰状などもらえると嬉しいようです。

○委員

個人の庭は、木は少なく、草も生えなくして、管理しやすくすることが主流です。そうすると、自分の手間がかからない公的な場所に緑を求めるようになります。草や木には良い面・悪い面があります。歴史的な空間は緑豊かである方が良いですが、維持管理が大事になります。桜などの寿命を迎えている木は植え替えが必要となりますが、大きすぎても景観的に良くないなど、いろんな面での維持管理が大事になります。

緑を増やそうと言っている割には、増やそうと動く人は少ないので現状です。緑が増えると手間を惜しむ人は多いですが、公共的な空間はもっと力を入れるべきだと感じます。

○委員長

生垣を作ると補助をする制度がある自治体もありますが、手入れが大変だからという理由で申請件数がほとんどないという話を聞きます。気持ちとして緑に対する憧れはあると思いますが、自分で動く人は少ないと感じます。

○委員

緑を自分で管理したり、業者に頼んだりしないといけないのが負担だと思う反面、公園などの緑に対するニーズは高まってくると思います。サクラはみんな好きですが、自分の庭には大

きく育つし、虫も増えるため、植えないと思います。行政が力を入れていくべきところだと感じます。

○委員（代理）

今回は計画期間8年で考えてられており、先が見えている長さとしては良いですが、緑づくりの観点だと短い気がします。計画期間を8年に設定しても、その先の将来的な姿を、市としてもう少し長い目で見て描けると伝わりやすい計画になると思います。

前計画での評価として民間活力の導入があまりできていないという話がありました。行政主導の取組はすぐできますが、民間事業者主導の取組は、思想としてはあってもなかなか進まないです。計画に書き込めるかと言うと難しいですが、緑の基本計画で書ける範囲で市民や事業者に期待する役割を入れると、市からのメッセージになると思います。

○委員長

市の設定した計画期間8年というのは、総合計画と合わせようという意向ですか。

●事務局

総合計画、都市計画マスタープランと足並みをそろえた方が良いと考えています。8年は短期間の計画になるとは思いますが、もう少し長期的な目標を見据えて8年間をどうしていくかだと思います。令和16年の改定では、今回の計画をより進めていくような形でなければならぬと思います。

○委員長

総合計画から1年遅らせて個別計画を立てることも多いですが、清須市の場合、都市計画マスタープランは同時に改定しており、緑の基本計画は1年遅らせて計画しています。本当は同じ時期にスタートしたかったのですか。

●事務局

都市計画マスタープランを同時期に改定したのは、企業や地元の気運や事業の熟度が高まり、その状況に合わせて内容を見直す必要があったからです。緑の基本計画も同時並行で改定を進める考えもありましたが、まずは総合計画と都市計画マスタープランを策定することになり、結果的に1年遅れることとなりました。2ヵ年で策定する計画のため、複数の部署とも足並みをそろえて、相互に連携しながら策定したいと思っています。

○委員

アンケート調査で、昔は緑に求めるものとして環境、レクリエーションが多いですが、最近行われた調査では、心身の安らぎの場という回答が最も多いです。国の方針でもwell-beingを実感できる都市を目標に掲げているため、本当に市民が求めているものとしてアンケートの結果に出ているなと感じました。

愛知県広域緑地計画の策定に携わったことがあります、農地や生物多様性、環境など、他部局に関わる内容も多いため、他部局とのつながりや意見交換をしてはどうでしょうか。

森と緑づくり事業について、清須市の応募件数は少ないため、そうした制度があることを市民に周知する機会としても生かせると良いと思います。

○委員長

清須市では、森と緑づくり事業をどのように使っていますか。

●事務局

市民参加緑づくり事業と緑の街並み推進事業の2つをしています。

緑の街並み推進事業は、屋上緑化や建物緑化に対して支援をしています。

市民参加緑づくり事業は、50名以上の市民が参加して学校や市の緑地で花壇や植樹などを毎年実施しています。子どもたちと植樹することで、大人になってからも植えたことを覚えていいるなど、思い出作りにもなり、緑の大切さを伝えていっているのではないかと思っています。一方でこの制度を知らない人も多く、企業も活用できるため、周知に力を入れていきたいです。

○委員長

名古屋市の緑の基本計画では、8つのK（観光、景観、活力、交流、子育て・教育、健康・福祉、環境、危機管理）を掲げており、それに関する緑づくりを行っているため、参考にしてみると良いです。

○委員

みずとぴあ庄内の河川敷は、庄内川でも一番緑が残っており、開けた空間で、安全に利用できる場所だと思います。清須市と他団体が協力して、環境学習の場として活用してもらっています。それをどれだけ継続できるかが重要です。一度途切れてしまうと続かなくなり、維持管理も及ばなくなり、草が繁茂してしまうという負の連鎖が起こってしまいます。まずは利用してもらうようにすることが大切です。緑を増やすのは、人口の関係もあり成果はすぐに出ないですが、緑を減らさず利用して維持することが重要だと思います。

国土交通省では「かわまちづくり支援制度」を創設しています。国が基盤整備し、上物の整備は市が行い、川を使って町を活性化することが目的です。川の使い方の自由な発想を、市がニーズを汲んで国に投げかけてもらえば、国も支援できると思います。こうした制度を活用していくれば、緑を増やしていくのではないかと思います。

○委員

市では企業の屋上緑化などもしていますか。

●事務局

最近は小中学校が多いですが、以前には市内の企業で社員が一緒になって植樹をするという

こともありました。市でも宣伝に力を入れていきたいですが、企業からも宣伝などしていただけるとありがたいです。

○委員

清須市は旧4町が合併して20年が経過しました。旧市町の拠点や祭りは継続・維持しているが、祭りの時に駐車場問題がクローズアップされています。多様な需要に対応する緑の環境づくりということで、週末の企業用地や市の施設の駐車場など、こうした施設を活用して駐車場問題に対応できる緑地を計画してもらえると、イベントなども実施しやすいと思います。

緑を作ると維持管理にお金がかかります。緑に手間をかけると綺麗ですが、手間をかけなければ景観が悪くなります。コスト管理の一環として、公共施設で行っている包括施設管理制度などを、緑の分野で取り組むことはできないか検討してほしいです。

○委員長

市内でアダプトプログラムを行っている団体は、どれくらいありますか。また、その中に企業が参加している例もあるのでしょうか。

●事務局

基本的には個人、PTA、自治会、子ども会、町内会、ボランティア、防災関係の団体であり、現在は23団体が参加しています。

○委員長

市の緑のあり方として、長期の目指すべき方向を量的な部分以外にも書き込めるといいと思います。

維持管理に関する意見が多く出たため、その内容についても対応できるといいです。昨今は雨が少なく木が枯れていますが、家の庭に水やりをするついでに近くの道路の植え込みにも水を撒いてもらうなど、市民の意識を変えていくのも大事です。また、農地についても何か対応できるといいと思います。

6 その他

今後の会議スケジュールを説明。

●事務局

本日は、多くの貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、令和7年度第1回清須市緑の基本計画策定委員会を閉会します。